

令和 8 年度 岩手県立盛岡北高等学校
第 1 回学校運営協議会（コミュニティー・スクール）会議録【要旨】

1 日時 令和 8 年 5 月 13 日（水）15：20～16：30

2 場所 本校南会議室

3 出席者

(1) 学校運営協議会

No	役職	氏名	職	備考
1	会 長	森 英記	株式会社森	企業関係者
2	副会長	村上 貢一	有限会社村上米穀店	企業関係者
3	委 員	阿部 大我	滝沢市企画総務部	行政関係者
4	〃	天野 哲彦	岩手県立大学	大学教授等
5	〃	坂本 斉	同窓会長	同窓会代表
6	〃	野原 勝博	盛岡市立北陵中学校	接続する学校の職員
7	〃	松本 怜子	教育振興会長	P T A 代表

(2) 本校職員

No	職	氏名	No	職	氏名
1	校長	藤田 知彦	6	生徒指導主事	平野 利浩
2	副校長	村上 浩紀	7	進路指導主事	大峠 要
3	事務長	西川 恵理子	8	保健主事	阿部 恵子
4	総務主任	田中 基	9	図書視聴覚主任	多田 裕也
5	教務主任	谷口 寛	10	総務担当	佐藤 初樹

4 次第

- (1) 開会の言葉
- (2) 委嘱状交付
- (3) 学校運営協議会会長 挨拶
- (4) 校長 挨拶
- (5) 学校概況説明
- (6) 協議
 - ア 本年度学校経営計画について
 - イ 働き方改革アクションプランについて
 - ウ その他
- (7) 学校運営協議会委員よりご提言
- (8) 閉会の言葉

5 記録

(2) 委嘱状交付

【藤田校長】

- ・ 盛岡北高校では令和 4 年度に学校評議員会の制度に切り替わり、本年度で 5 年目となる。
- ・ 委員の皆様には、この制度のもと盛岡北高校の非常勤の特別職という立場で、教職員とともに学校を作っていくという役割をお願いするもの。
- ・ 本日の第 1 回の会議は、盛岡北高校の現状を理解していただくことを重点に進めたい。

(3) 学校運営協議会会長挨拶

【森会長】

- ・ 4月8日の入学式を終え新入生を迎えて学校生活がスタートしている。
- ・ 今春から自転車の交通ルールが変わり、生徒には乗り方や交通事故には十分注意しながら通学してほしい。
- ・ 5月下旬には吹奏楽部の発表会や高総体が開催される。東北大会やインターハイを目指し実力を発揮してほしい。また、それらが終われば、3年生は将来を見据えた次の目標に向け取り組むこととなる。
- ・ 全国的なニュースで、修学旅行中や部活動の移動中の事故により、若い命が失われたことは痛ましいことであり、家庭の中から子どもの夢や将来についての会話等の団らんが一瞬にして消えることは、子を持つ親としていたたまれないものである。
- ・ 盛岡北高校に夢を抱きながら入学した生徒が多く、憧れが現実のものとなるように、先生方には御指導をお願いするとともに、より良い教育環境を整えたいと考えている。
- ・ 学校運営協議会として、良い提言ができるように努めて参りたい。

(4) 校長挨拶

【藤田校長】

- ・ 県内の公立高校において、直近5カ年で学校運営協議会の導入が進められたのは、より地域との交流や連携を深めていきたいという理由からである。
- ・ また、県全体の取組として高校魅力化が進められており、小規模校だけでなく全ての高校において地域と協働した魅力ある学校づくりに取り組むこととしている。
- ・ 高校魅力化を持続可能なものとするためには、地域の方々の存在が必要不可欠であり、この盛岡・滝沢地区を代表するキーパーソンの方々に御参会いただいている。
- ・ 県内全体に目を向ければ、少子化の影響により県立高校の再編整備が進められており、盛岡地区においても今後一定の学校規模を維持していくために大規模な統合等の検討が想定されている。
- ・ 今後も盛岡北高校が地域の中で存在感と魅力を維持していくことができるよう皆様の力をお借りしたい。

(5) 学校概況説明

資料に基づき説明

(6) 協議

ア 本年度学校経営計画について

【藤田校長及び各主任】

資料に基づき説明

【藤田校長】学校HPについて

- ・ 現状の学校HPの更新には、ある程度の知識がないと対応できないものであり、その改良に向けて、現在、複数業者に見積もりを依頼しているところであり、担当者が変わったとしても対応できるものとしたい。

<森会長>

- ・ 防災避難訓練について、地震や火災を想定している従来のものに加え、水害や熊などの獣害対策の訓練も必要である。

＜坂本委員＞

- ・ 近隣の中学校は新しい校舎が多いが、盛岡北高校は来校した中学生から校舎が古いという声があり、環境改善に協力したい。

【保健厚生課】

- ・ 現在、自分たちで校舎をきれいに掃除するところから取り組んでいる。そのような協力は非常にありがたい。

＜坂本委員＞

- ・ 生徒の図書室の利用促進に向けて、カフェやコミュニティ・ルームを設置できないか。

【図書視聴覚課】

- ・ 全国の学校図書館等の成功事例を収集し検討する。

イ 働き方改革アクションプランについて

資料に基づき説明（副校長）

【村上委員】

- ・ 目指す姿の項目に「コミュニケーションを大切に」との記載があるが、具体的な取組に対応する表現を作成してほしい。

【副校長】

- ・ 検討する。

ウ その他

協議題無し

(7) 学校運営協議会委員よりご提言

【森 会長】

- ・ 社会にできれば専門知識や技術とは別に企画力（情報処理能力、観察力、探究力、想像力）が必要となる。
- ・ 例えば、思い通りに行かない場面であっても、次の行動をとることができる能力が必要であり、盛岡北高校のスクール・ポリシーに加え、メンタルの回復力等も必要である。

【村上 副会長】

- ・ 社会が不透明な時代だからこそ生徒と教師で夢や理想を語り合ってほしい。校是「師弟和熟」の体現にもつながる。
- ・ その根本を探究の中で培うことができれば、どのような社会となっても生きていける逞しさを持つことができる。

【阿部大我委員】

- ・ 今年度もアクティブラーニング、探究活動で滝沢市と連携をしてほしい。
- ・ 模擬投票についても、引き続き協力したいと思っている。
- ・ 昨年度から若者活躍応援補助金という滝沢市の制度がある。今年度も、それを活用しながら広く活躍の場を増やしてほしい（昨年度は吹奏楽部が利用）。

【天野 委員】

- ・ 2040 年頃には、生徒数の減少の影響により「入学試験があるから勉強を頑張る」という現在の考えが通らない時代となる。
- ・ 「学び」そのものを面白いと思わなければならない、探究活動はその入口である。その探究活動の最終目標は、その活動を通して教科学習の必要性を認識することである。
- ・ これからの 10 年間においては、如何に生徒の学ぶ意欲を向上させるかが重要となる。

【坂本 委員】

- ・ 生徒が入学して良かったと思える学校であってほしい。
- ・ 同窓会として、教育環境を整えるための協力は惜しまない。

【野原 委員】

- ・ 学校経営計画等よく吟味しており、この計画をもとに実り多い 1 年としていただきたい。
- ・ 中学校の生徒数も著しく減少しており、北陵中学校においては、生徒数が一番多かった時代の約 3 分の 1 となっている。
- ・ 中学校 3 年生のうち約半分の生徒が私立高校に進学を決定し、公立高校の受験自体しない状況であり、公立高校の魅力の発信は重要である。
- ・ 生徒だけでなく職員も健康的に活動してほしい。

【松本 怜子】

- ・ 中学生は登下校の様子をよく見ており、整容指導にも力を入れてほしい。
- ・ 進路の実現に向けて、学校と家庭が同じ方向を見て、生徒を支援したい。
- ・ 昨今の大学受験について、オンラインでの受験申込みなどが増加し、生徒だけの作業は不安に感じた。PTA も関わって情報発信できると良い。

【藤田校長】

- ・ 頂戴した御提言について、今後の学校運営にいかしたい。